

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Teenage pregnancy as a risk factor for placental abruption: Findings from the prospective Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

10代の妊娠と常位胎盤早期剥離の関連について

ユニットセンター(UC)等名: 福島ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Plos One

年: 2021 DOI: 10.1371/journal.pone.0251428.

筆頭著者名: 経塚 標

所属 UC 名: 福島ユニットセンター

目的:

常位胎盤早期剥離は母子ともに生命に関わる妊娠合併症です。今回の調査は母体年齢が常位胎盤早期剥離リスクについて調べました。

方法:

エコチル調査にて単胎妊婦を対象として、常位胎盤早期剥離の発症リスクを多変量解析により分析しました。母体年齢を10代、20歳代、30から34歳代、35歳以上に分類しました。多変量解析の交絡因子として常位胎盤早期剥離の既往の有無、生殖補助医療による妊娠の有無、分娩回数、母体年齢、母体喫煙の有無、妊娠前母体BMI、母体妊娠時高血圧を選択しました。

結果:

当研究の対象者は非常位胎盤早期剥離妊婦 93,994 人、常位胎盤早期剥離妊婦 416 人でした。常位胎盤早期剥離の発症率は 0.4% でした。分娩回数による有意な常位胎盤早期剥離の増加はありませんでした。母体年齢 20-24 歳のグループをコントロールとした場合、母体年齢 35 歳以上では常位胎盤早期剥離のリスクは 1.7 倍増加するのに対し、10 代の妊婦では常位胎盤早期剥離のリスクは 2.8 倍となることが明らかになりました。

考察(研究の限界を含める):

一般的に 10 代の妊婦は社会的困難に直面する可能性が高いことが指摘されており、社会的困難に直面する妊婦は、早産のリスクが高いといわれています。早産は常位胎盤早期剥離に関与することが多く、このことが 10 代の妊婦が常位胎盤早期剥離のリスクを高めた可能性があります。この調査の限界点として、常位胎盤早期剥離の診断は臨牀的に診断されるため、診断者の間に診断基準の相違があった可能性があります。

結論:

35 歳以上の妊婦のみならず、10 代の妊婦は常位胎盤早期剥離のリスクが上がる事が明らかになりました。社会的困難は早産と強く関連しているため、若年妊婦に対する社会的支援が常位胎盤早期剥離のリスクを減少させる可能性があります。